

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和4年6月10日（金） NO9 文責 木下 文秋

欠席は少ないに越したことはない

出席停止という言葉をごこれくらい頻繁に使うことはこれまでありませんでした。厳寒期にインフルエンザに罹患した時くらいしか口にするにはなかつたのに、鼻水、咳、腹痛も含め風邪症状があれば「出席停止」となっています。コロナ感染を防ぐためには、大事な対処だと思います。コロナ禍生活の前だと体調が悪くても「ちょっと頑張って登校する」ということがあったと思うのですが、今は他人への迷惑等も考えると不安になりますね。ですから、私はここで風邪症状があっても無理して登校することを勧めるわけではありません。要は、コロナとは全く関係のない理由の欠席はないかということです。昨年度から県立高校の入試に「自己推薦制度」が導入されました。初めての経験で、どの生徒がどのように合否を判定されるのかと興味をもっていました。

私が受けた印象ですが、高校側が受検する生徒の学校での様子を判断する材料はあまりなかつたように感じています。判断するとしたら生徒が自ら書いた自己推薦書で生徒の思いや性格等を理解することがひとつ。もう一つは当然成績。そして、欠席日数だと思います。出席停止は欠席にはあたりません。行ってはいけないというのが出席停止ですから、そこで受検の合否を判断する材料にはならないと思いますが、欠席や遅刻、欠課ということには理由がつきます。そこは一つの判断材料になるのかなと思います。学校は学習に励み学力をつけるところであるとともに、部活動や学校行事で体力を高めたり、みんなと力を合わせることの素晴らしさを体感したりする場です。それと併せて、辛抱することや、やり遂げること、続けることの大切さを学んだり、時には不条理なことを受け入れたりする場でもあります。自分にとっていいことばかりではない。時には嫌なことや、きついことも経験する中で、身も心もたくましくなっていくはずですが、再度確認しますが、コロナ禍の生活を送る上で、風邪症状がある場合は登校してはいけません。しかし、体調とは別の理由で安易に欠席をすることはよろしくないということです。学校で嫌なことがある、友達との関係が良くない等の悩みがあれば積極的に先生に相談してください。特に受験生である3年生にとっては重要なことです。高校側は欠席しない生徒と欠席してばかりの生徒、どちらを合格させるか考えると容易に答えは出ます。欠席は少ないに越したことはありません。